

課題解決型研究プログラム 自然共生研究プログラム

委員会の主要意見

現状についての評価・質問等

- 気温の変化が植物の代謝機能に及ぼす影響についてのメカニズム解明の研究は、今後の地球温暖化研究として大変有意義である。
- 無居住化が生物多様性に及ぼす影響を明らかにし、保護区選択ツールを開発したことが評価できる。
- 殺虫剤・除草剤の影響調査のための小規模野外実験での検証は、対照となる無農薬区が隣接していて、コンタミが多くて難しいのではないか。

今後への期待など

- ヒアリ対策や農薬取締法改正への対応など、社会実装の実績を踏まえて外来種対策への更なる貢献を期待する。
- 気候変動適応の防災・減災としての重要性がますます高まることや都市の縮退により対策を取り得る空間が生じていることから、生態系サービスとしての影響に関しても、今後の対応につながる研究に期待したい。

主要意見に対する国環研の考え方

- ①プログラムを支えるものとしてメカニズムや実態把握という基礎的な検討は重要だと考えております。それもふまえて応用的なプログラムを運営していきたいと思っております。
- ②今後、無居住化が生物多様性に及ぼす影響への保護区選択ツールの活用など、統合的な解析を進めて参ります。
- ③殺虫剤・除草剤の影響調査で使用している剤は、浸透移行性殺虫剤の粒剤で箱苗施用(箱苗に粒剤を撒いて、薬剤を苗に吸収させてから水田に植える)という方法で投与されるものであり液剤の散布のようなコンタミは起こりません。また各水田の土壌は樹脂のシートで覆われて外部の土壌とは接触しないように設計されているため土壌浸透によるコンタミも防ぐ形で試験を行っております。
- ④外来種防除、農薬影響等に関する社会実装を進めて参ります。
- ⑤今後、グリーンインフラの活用にも着目して研究を進めて参ります。